



稲わらのすき込みで土づくり

稲わらは大切な有機資源です。
焼却せず、水田にすき込んで有効に活用しましょう。

すき込みの効果

毎年すき込むことで堆肥とほぼ同等の効果が期待できます。

- ・作土が厚くなる。
- ・土が柔らかくなる。
- ・土中の窒素量が増える。



すき込みの方法

すき込みは稲刈後、早めに行う。

- ・コンバインで細断した稲わらを均一に散らす。
(均一にすき込まないと生育むらになりやすい。)
- ・石灰窒素などの腐熟促進剤を散布すると効果が増す。
- ・プラウ、ロータリーですき込む。

すき込みした水田の管理

1 基肥窒素量

すき込み年数	基肥窒素量の目安(生育に応じて加減する)
連用2～3年目まで	慣行より5～10%増やす (つがるロマンは倒伏しやすいので注意)
連用3～4年目	慣行と同量
連用4～5年目以降	慣行から5～10%減らす

- 2 代かきは水深を浅めにして、稲わらを土中に埋め込むように行う。
- 3 ガスによる根腐れを防ぐため、中干し、溝切り、間断かんがいなどで土中に酸素を補給する。

問合せ先

中南地域県民局地域農林水産部

農業普及振興室 電話 0172-33-2903
黒石分室 電話 0172-52-4335

